

2万5,000件を超える患者の画像データを瞬時に管理・活用できるPACS導入 治療効果を誰もが納得できる医療追求

世界でも有数の長寿国となった日本。だが、寿命の延長は身体の負担を増加させることにつながり、長生きをすればするほど慢性疾患の発症率も高まる。なかでも整形外科関連の疾患は最も多く現れる。変形性関節症や骨粗鬆症、変形性脊椎症といった整形外科関連の疾患の発症率は過去20年間上昇を続け、今後もさらに増えることが予想されている。こうした状況に対応するために堀口整形外科医院では、スピーディな画像処理ができるPACSを導入し、誰もがわかりやすい治療の提供を可能にしている。

取材・文=繁原稔弘

古くからの住宅地で、三代にわたり地域医療に貢献

阪急電鉄宝塚沿線で高級住宅地として開発された池田市。同市でも古くからの住宅地として開発された室町の一画、阪急電鉄「池田」駅から徒歩約3分という好立地に堀口整形外科医院はある。3代目となる堀口泰輔院長は、「先々代が、この地で外科の診療所を開いたのが始まりです。その後、父が2代目となって整形外科も積極的に診療するようになりました。そして、私が大阪府済生会茨木病院などの勤務を経て2005年に戻



阪急電鉄池田駅に連なる商業施設前の好立地にある堀口整形外科医院

り、昨年10月から3代目の院長となりました」と説明する。

室町は古い町だけに、池田市のなかでも高齢化が進んでいる地域の1つでもある。そのため、必然的に整形外科のニーズは高い。実際に同院では骨折や捻挫、打撲、腱損傷、外傷、スポーツ障害、五十肩、変形性関節症、手のしびれ、腰椎椎間板ヘルニア、リウマチ性疾患、骨粗鬆症、軟部腫瘍といった運動器疾患全般の患者が多く、しかもその大半は、近隣住民

である。「長年、この地で診療を行っていますから、昔から親子代々にわたって来られる方などが多くです(堀口院長)。ただし、「関節リウマチ」と「骨粗鬆症」、「巻き爪・陥入爪」の治療に注力していることもあり、特に巻き爪・陥入爪に関しては遠方から訪れる患者もいるという。「関節リウマチと骨粗鬆症は、ガイドラインを基本としつつ、患者さんそれぞれの状態に合わせて治療を行っています」と言う堀口院長。また、他の整形外科では、あまり見かけない「巻き爪・陥入爪」の治療ニーズも意外と高く、「手術が多い病院勤務時には

気がつかなかったのですが、これ

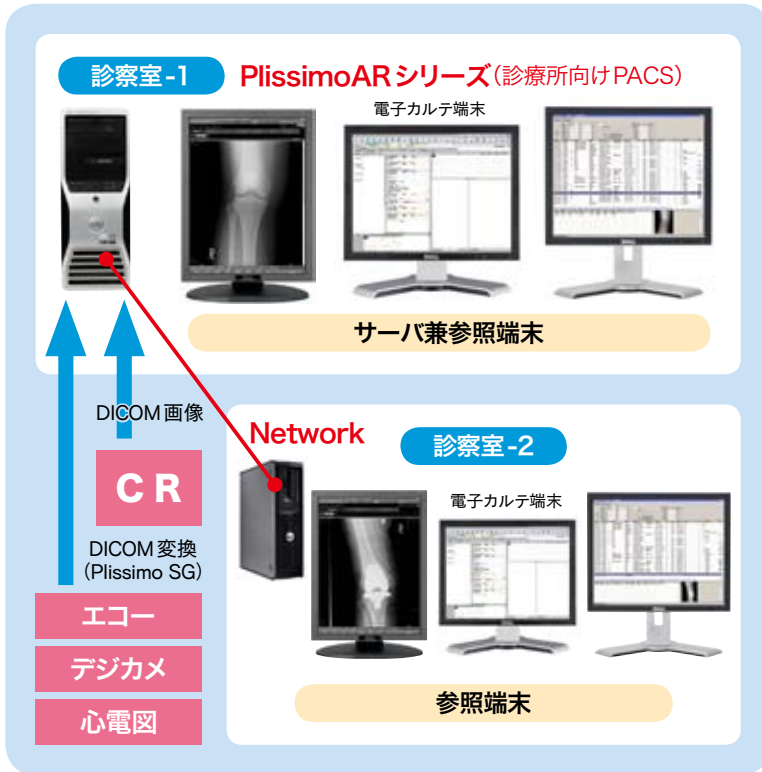
は保存的治療を手がける診療所だからこそ病気だと思えます。巻き爪・陥入爪をどうして治療すればいいのかから悩んでいる人は、思っている以上に多い」。こうした事情から、自費診療にもかかわらず途切れなく来院患者があるという。

デジカメの撮影写真など 多種の画像データを一元管理

同院では2005年9月に、X線撮影した画像をコンピュータで処理するためにCR(コンピュータX線写真)を導入。先代の院長にも提案し、パナソニックメデカルソリューションズ(株)製のPACS『プリッシモ』ARシリーズの購入を決めた。PACSとは、CRやエコーなど医療検査機器の画像をデータベースに保管し、必要な画像データを瞬時に診察室などの端末で呼び出すことが可能なシステムである。

「せっかく画像をデジタル化するので、管理もコンピュータで行うほうが便利だと考えました」と、堀口院長は説明する。導入して丸5年たった現在、そ

図 堀口整形外科医院のシステム概要



第1診察室で診療する堀口泰輔院長。PACSを駆使した画像による説明は「わかりやすい」と、患者から好評だ



デジカメで撮影した巻き爪の術前・術後の状態を比較する堀口院長。さまざまな画像情報を患者情報として管理できる多機能さが便利だという(第2診察室)

の効果に関して堀口院長は、「何よりも、デジカメで撮影した患部の写真データやX線撮影画像など、異なったデバイスの画像データを一元管理できるのが最大のメリットです」と絶賛する。とりわけ巻き爪・陥入爪では、術前・術後の撮影画像を並列表示することで治療の効果が歴然となる。費用と効果に対する患者の意識が高いなど、デリケートな側面がある自費診療では、特にPACSはその力を発揮するだろう。

堀口院長はさらなるメリットについて、「表示の拡大や縮小なども自由自在ですから、従来のフィルムとは比較にならないほど多くの情報が得られますし、デジタル保存されていますから画像劣化がなく、何年も前の画像と今の画像を並べても、はつきりと比較できます」と指摘する。2つの診察室に端末を置く同院では、同時にどちらからでも画像閲覧できるのも治療に役立つという。

この5年間、PACSで扱った検査の数は2万5000件を超えるが、治療に当たったの画像処理に関して「ストレスは全く感じていない」そうだ。さらに、同院では

昨年6月から電子カルテを導入し、PACSと連携した診療が行えるようになったことで、診察後の会計待ち時間の短縮化にも貢献している。

「PACSはいろいろな機能をもっているんで、パナソニックメデイカルソリューションズさんのサポートを受け、さらに効果的な医療サービスの提供をしたいと思っています。私の技術も向上させて、より患者さんにとって効果のある治療ができるようになりたいのはもちろん、手術などでどうしても当院では処理できないケースを除いて、ここで治療が済むようにすることで、協力して下さっている近隣の病院の先生方の負担を少しでも減らすことができます」と考えています

■商品に関する問い合わせ

**パナソニック
メデイカルソリューションズ
株式会社**

〒571-8504
大阪府門真市松生町1-15
TEL:06-6905-4161
<http://panasonic.co.jp/psec/pmsec/>